

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                                |     |              |
|----------------|--------------------------------|-----|--------------|
| ○事業所名          | 福岡療育支援センターいちばん星新宮 児童発達支援新宮きらら園 |     |              |
| ○保護者評価実施期間     | 令和7年9月16日                      |     | ～ 令和7年11月30日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                         | 15人 | (回答者数) 14人   |
| ○従業者評価実施期間     | 令和7年10月23日                     |     | ～ 令和7年10月31日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                         | 7   | (回答者数) 7     |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年1月10日                      |     |              |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること   | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等  |
|---|--|---|---|
| 1 | 多職種の職員が、それぞれの専門性を生かし、子ども一人一人に合わせたきめ細やかな支援を行っている。   | 日々のミーティングの中で、子どもたちのその日の体調、様子、課題を確認し、次回の療育での支援についても検討する。また日々のミーティングの中で、セラピストへの相談事項も確認し、各職種の専門性も意識できるようにしている。   | 現在の支援を継続していくと共に、職員一人一人の資質をあげていけるように、部署内、会社内での研修を充実させていく。        |
| 2 | 参加可能な保護者を対象に、週に1回の親子療育を実施し、午後は保護者のみの交流の時間、職員から保護者への伝達の時間を設けている。                          | 低年齢の児または在宅生活から初めて児童発達支援に通う児を対象に行った。子育てへの不安、通所への不安を抱えた保護者が、きらら園で子どもと一緒に過ごすことで、不安を軽減することができている。<br>保護者だけで過ごす時間を設けることで、保護者同士の交流が深まり、地域の中で孤立しがちな重心児の保護者にとってリフレッシュの機会となっている。 | 就労している保護者が多い現状ではあるが、参加可能な保護者がいる限り、継続していく。                       |
| 3 | 月に1回、全利用児にお知らせし、希望者を募る形で親子療育を実施している。通常療育の参観だけでなく、お出かけやクリスマス会など、イベントも行い、たくさんのご家族が参加されている。 | 家族だけではできないようなこと、また、年齢相応の経験ができるようなことを中心にイベントを企画している。<br>イベントの中では、自己紹介の場面を設け、きららの他の子どもたち・ご家族のことも知ってもらえるようにしている。<br>集合写真を撮ったり、職員が仲介したりしながら、保護者同士がお互いを意識できるようにしている。         | 月に1回の親子療育を継続し、通常療育だけでなく、遠足、クリスマス会、卒園式など、様々な経験を家族と共有できる機会を設けていく。 |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること  | 事業所として考えている課題の要因等   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                    |
|---|---|---|---|
| 1 | トイレ、手洗い場が成人用なため、重心の幼児には適していない。  | 根本的には改装が必要である。  | 改装がすぐには実現できないため、子どもに合わせた台などを作成し対応する。    |
| 2 | 保育園にも在籍している児に対しての保育所等訪問支援は行っているが、きらら園として地域のこども園・保育園との交流は行っていない。                                     | 保護者のニーズが確認できていない。<br>また、複数の自治体から通所している子どもたちなので、交流するとしても交流先の選択が難しい。      | 保護者のニーズを確認し、必要であれば地域のこども園、保育園との交流を検討する。 |
| 3 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定しているが、保護者への説明が不十分であった。 | 個別支援計画に明記しているが、説明はきらら園の生活に即した本人支援を中心に行っていたため、それ以外の項目が保護者にきちんと伝わっていなかった。 | 保護者への説明時に、全体をきちんと伝えること、丁寧に伝えることを心がける。   |